



神明われら 誇りは高し

平成 29 年 9 月 22 日

神明学校 <http://www.suginami-school.ed.jp/sinmeichu/>

教育目標 創造・鍛錬・共生 校訓 自主・自律

神明中の「これから」のために

校長 杉山 善之

正門の創立70周年のちょうちんの向こうに校舎の大きなリボン。学校支援本部からの贈り物です。「地域とともに70年」のエンブレム。9月30日の記念式典に先立ち、神明祭が23日に行われます。このお祭りは、地教連の皆さんとともに、「子ども地域活動促進事業」として行われ、すっかり地元の年中行事になりました。70周年式典の日程との関係で、桃井第二小学校の運動会と重なり、関係の皆さんや桃二小学校の児童の皆さんにはたいへん残念な思いと、ご迷惑をおかけしていることを申し訳なく思っています。ですが、やる以上は盛大に神明祭ができるよう、中学生もがんばっていきます。



70周年事業の一環として行う、パネルディスカッションの内容も煮詰まってきました。先の学校便りでご紹介したように、式典終了後、中学生生徒会サミットから考え出したピースバッジに由来する、自分たちで創り出した「平和サミット」に、パネリストとして杉並区教育委員会教育長 井出隆安様、スポーツ文化庁国際課企画官 猪股康博様、学校支援本部長 石井学様、ファシリテーターに山ノ内凜太郎様を、また式に参加する皆さんもディスカッションに参加していただく予定です。「もし神明中から部活動がなくなったら」というショッキングなテーマのもと、皆さんといっしょに、これからの神明中の未来や神明クラブをはじめとする地域、中学生の言葉を借りると「地元」とのかかわり、そして、究極的には、未来の「地元」の一員となる中学生を含めて、「あなたは社会にどう貢献するのか」をディスカッションしたいと思っています。

「統廃合問題」から同窓会や「地元」の皆さんのご努力と「学校希望制」による

生徒数の回復、そして、「学校希望制」終了後の今。神明は、たくさんの試練を乗り越えてきました。しかし、今あるのは、先人たちの実績とこれからの社会を創るために学んでいる在校生のパワーと、そして神明中の後を担うまだ小さな子供たちの力です。「神明われら 誇りは高し」、自分たちの「今」を生きましょう。

「地元」の皆さん、中学生といっしょに話し合ってみませんか？ディスカッションは午前10時30分ぐらいから体育館で行います。

生徒会が主催する「平成29年度神明中あいさつ・コミュニケーションサミット」が7月14日（金）に体育館で行われました。

専門委員会で、あいさつ・コミュニケーションについて、活動案を作成して、生徒評議会でサミットにむけた提案をし、その中から全校の代表案を3つ選んでサミットで提案することになりました。

その案を代表生徒がパネリストとして説明しました。その説明に対して、全学年の生徒が揃うように10人程度の班に分かれ、意見・質問を出し合いました。3年生が司会を務めたり、積極的に意見を出したりすることで、下級生たちも次第に意見や質問をするようになっていきました。

班で出た意見・質問は全体で共有することができました。班毎に番号のついた画用紙を挙げ、司会が指名する形でパネルディスカッションを行いました。1時間途切れることなく、次々と意見・質問が発表されました。最後は生徒会長の小田さんが案に対する意見のまとめを発表しました。

一人一人の生徒があいさつ・コミュニケーションについて考え、自分の意見をもってサミットに参加していました。活発な意見交換により、自分以外の考えに触れ新しい「気づき」があったり、自分以外の多くの考えをもとに、新たな考えに辿り着いたりすることもあったようです。全校生徒が一堂に揃って、このようなサミットが実現できたことは大変有意義でした。

